

単元名：

「ことばを たのしもう」

(全1時間扱い中 第1時)

授業日時 2021年10月14日(木) 第2校時

授業学級 1年西組

授業会場 1年西組教室

授業者

指導者

(1) 主眼(授業の手立て&ねらい)

(○○の子ども達が)○○の場面で、○○を通して、○○を□□することができる/できるようになる。

言葉のリズムに楽しさを見出し始めた子どもたちが、声に出して難易度の異なる早口言葉に挑戦する場面で、声に出してリズムよく、正しく読むことができるか練習したり、友だちと確認したりすることを通して、言葉のリズムの楽しさを感じることができるようになる。

(2) 展開

	学習活動	予想される子どもの反応	「授業者の主な発問」・※留意点・【教材】	時間
導入	1.「ぞうさんのぼうし」を読む。	「“ざ”とか“ば”とか点と丸がついた文字がたくさん。」 「言いにくそう」	※子どもたちが聞きやすいようにゆっくり読み上げる。教師が読み上げた後に、1行ずつ追いかけて読むように指示する。初めはゆっくり読み、子どもたちの様子に合わせてスピードや男女別など読むメンバーを変える。 手拍子をしながら読み、リズムよく読むことが意識できるようにする。【ぞうさんのぼうし教科書 22.23 ページ】【きっときって… 教科書 22.23 ページ】	10
	【学習問題】 いろんなことばのリズムにちょうせんしよう			
	2.「きっときって…」を読む。	「っがいっぱいだ」 「わけわかんなくなる」		
	【学習課題】 声に出してリズムよく、正しく読むことができるか練習したり、友だちと確認したりしてみよう。			
展開	3. 早口言葉を知る	「これ知っている」 「これは言えるよ」 「長いのは言いにくそう」 「言えるかな」	※早口言葉の動画を見せ、早口言葉についての理解・感覚を掴めるようにする。 【「早口言葉、言えるかな？」】	5
	4. 他の早口言葉に挑戦する。	「これなら言えそう」 「こんなのすぐ出来ちゃうよ」 「絶対に一番早く終わりたい」 「シール貰いたい」 「難しいのってどれくらいだろう」 「早く言えるかな」	※難易度の異なる早口言葉カードを用意し、子ども同士の確認後、先生が確認し、読めた子どもには、クリアしたカードと交換で次のレベルのカードを渡し、挑戦してもらう。 ※早口言葉が得意ではない子どもには、進度が速い子どもからコツを聞き、子どもたちが苦手でも挑戦しようと思えるような声掛けを行う。	5 20
	【本時の評価（評価する対象）】 言葉のリズムの楽しさを感じることができるようになる（行動観察、カードの記録）			

終末	5. どのレベルまで挑戦できたか振り返る。	「僕は、最後までいったよ」 「最後までいかなかった。」 「早口言葉って難しい。」 「もう少し言えるようになりたい。」	※どのレベルまで到達できたか確認することで、リズムよく、正しく読むことを意識できたか振り返る時間とする。 ※最後のレベルまで到達出来た子どもには、シールを渡す。 ※授業後も早口言葉に取り組みたい子どもたちができるように、画用紙に記入し、掲示しておく。	5
-----------	------------------------------	--	--	----------